The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Myanmar’s Foreign Exchange Market: Controls, Reforms, and Informal Market
Author(s)	久保, 公二
Citation	大阪大学, 2018, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/70681
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（久保　公二）	
論文題名	Myanmar’s Foreign Exchange Market: Controls, Reforms, and Informal Market （ミャンマーの外国為替市場：統制、改革とインフォーマル市場）

論文内容の要旨

本論文は、東南アジアの開発途上国ミャンマーにおける外国為替市場の変容を実証的に分析したものである。本論文は、分析の枠組みを示す第1章と、為替市場の変容を系統立てて分析した5つの章、そして分析を総括した最終章の、全7章で構成される。

第1章は、外国為替市場の類型化をもとに、ミャンマーの外国為替市場が既存研究で想定された外国為替市場とどのような点で異なりえるのか、論点を整理している。新興国や先進国の為替市場では、対顧客取引とディーラー間取引の二つが銀行に集まることで公式な為替市場の流動性が高まり、市場が拡大するとともにスポット取引から先物取引に進化してきた。非公式な外貨取引は多くの国で存在するが、一般的にその規模は限定的である。また、非公式市場は銀行外の企業間取引を軸とするスポット取引に留まる。本論文のミャンマー外国為替市場の分析は、非公式市場が公式市場を規模で上回った場合に外国為替市場はどのような発展経路をたどるのかという問いと位置づけられる。

第2章は、ミャンマーにおける非公式為替市場の形成を、計画経済体制からの中途半端な市場経済化の移行戦略の結果として描写している。本章は、市場経済移行過程の記述的分析をもとに、ミャンマーの民間部門のすべての外貨取引が非公式市場に放置された経緯を解説している。

第3章は、2012年の外国為替制度改革以前の民間部門における非公式市場の実態を明らかにしている。本章は、外国為替・貿易規制の体系的な整理と現地調査に基づく記述的分析で、民間部門への規制が、インフォーマルな経済活動を促すとともに、非公式市場を4つに分断して資源配分を歪めていたことを示している。規制が裁定取引を妨げたために、外貨が出所ごとに異なる価格で取引されていたことを、本章はデータで示した。また、異なる出所の外貨が異なる動機で取引されるなかで、一部の外貨取引はインフォーマルな経済活動ならびにインフォーマルな送金制度との間で補完性を帯びて持続性を強めたとの見方を本章は提示した。

第4章は、外国為替制度改革前に起こったミャンマーチャットの異常な増価の原因を考察している。2007年から2011年にかけて、チャットは米ドルに対して1300チャット／ドルから740チャット／ドルまで増価した。本章は、マクロ経済データの定性的な分析で、天然ガスとヒスイの二つの資源輸出ブームが歪んだ為替政策のもとで為替レートに対照的な影響を及ぼしたことと、輸入規制がチャットの増価を悪化させたことを明らかにした。

第5章は、外国為替制度改革の概要を整理し、改革後に生じた公式市場と在来の非公式市場の関係を考察している。本章は、公刊された資料と現地調査に基づく記述的分析で、改革の概要を示したうえで、公式市場と非公式市場の関係を記述統計と時系列分析で検証している。本章は、記述統計により、依然として非公式市場が公式市場を規模で上回っていることを示した。さらに、中央銀行が外貨オークションにより非公式市場の為替レートを制御できるか否かをGARCHモデルで分析し、オークションが非公式為替レートに限定的な影響しか及ぼしていないとの推計を示した。

第6章は、輸出入企業の外貨取引についての独自の企業調査をもとに、外国為替制度改革後も非公式な外貨取引が続く原因を考察している。本章は、輸出入企業が公式と非公式のどちらの取引方法を選択しているかを企業の属性に回帰したプロビットモデルを用いた分析で、非公式取引の習慣化の代理変数である企業年齢が取引手段の選択と統計的に有意な関係がない一方、外貨取引額の大きい企業が非公式から公式な外貨取引に移行する傾向を示した。この結果は、非公式市場が競争的であるものの決済リスクを伴っていることを示唆しており、非公式市場に正の外部性が働いているとの見方と整合的である。

第7章は、本論文の分析を総括し、ミャンマーの外国為替市場の近代化に向けた暫定的な処方箋を示すとともに、本論文における分析の限界と今後の研究課題をまとめている。本論文の分析の限界として、非公式市場の外部

性を非公式市場が解消しない原因であるとしながらも、本論文が外部性そのものを証明していない点を指摘し、今後の研究課題としている。

本論文は、ミャンマーの外国為替市場の変容について初めての体系的な研究である点、ならびに公式市場の規模を上回る非公式市場を持つ途上国での外国為替制度改革という先行研究が取り上げていない現象を研究している点で、開発途上国経済研究における学術的な貢献を行った。本論文はミャンマーというデータの制約が多い途上国を扱いながらも、非公式為替レートや外貨オークションなど公刊されていない金融データを丹念に収集するとともに、外国為替・貿易規制の推移を体系的に整理し、それらの情報を現地調査による企業や政府当局へのインタビューで補完して、これまで明らかでなかったミャンマーの外国為替市場の経路依存的な変容を明確にした。

様式 7

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（　久保　公二　）		
論文審査担当者	（職）	氏　名
	主 査　教授	大槻　恒裕
	副 査　教授	利　博友
	副 査　教授	国宗　浩三

論文審査の結果の要旨

本論文は、東南アジアの開発途上国ミャンマーにおける外国為替市場の変容を実証的に分析したもので、分析の枠組みを示す第1章と、為替市場の変容を体系的に分析した5つの章、分析を総括した最終章の全7章で構成される。

第1章は、外国為替市場の類型化をもとに、ミャンマーの外国為替市場の捉え方が既存研究とどう異るのか、論点を整理している。第2章は、ミャンマーにおける非公式為替市場の形成を、歴史的な見地から計画経済体制からの中途半端な市場経済化の移行戦略の結果として捉える視点を提供している。

第3章は、外国為替・貿易規制の体系的な整理と現地調査に基づく記述的分析により、2012年の外国為替制度改革以前の民間部門における非公式市場の実態の解明を試みており、民間部門への規制がインフォーマルな経済活動を促すとともに、非公式市場を4つに分断して資源配分を歪めていたことを示した。また、異なる出所の外貨が異なる動機で取引きされるなかで、一部の外貨取引はインフォーマルな経済活動ならびにインフォーマルな送金制度との間で補完性を持ち、その結果持続性を強めたとの見方を提示した。

第4章は、外国為替制度改革前に起こったミャンマーチャットの異常な増価の原因の解明を試みており、マクロ経済データの定性的な分析により、天然ガスとヒスイの二つの資源輸出ブームが歪んだ為替政策のもとで為替レートに対照的な影響を及ぼしたことと、輸入規制がチャットの増価を悪化させたことを明らかにした。

第5章は、公開資料と現地調査に基づく記述的分析により外国為替制度改革の概要を整理し、改革後に生じた公式市場と在来の非公式市場との関係の解明を試みており、記述統計により、依然として非公式市場が公式市場を規模で上回っていること、及び、GARCHモデル分析により中央銀行が外貨オークションにより非公式市場の為替レートを制御できるか否かを分析し、オークションが非公式為替レートに限定的な影響しか及ぼしていないとの推計を示した。

第6章は、輸出入企業の外貨取引についての独自の企業調査をもとに、外国為替制度改革後も非公式な外貨取引が続く原因を考察している。プロビットモデルを用いた分析により、輸出入企業が公式と非公式のどちらの取引方法を選択しているかを、企業の属性に回帰し、非公式取引の習慣化が取引手段の選択と統計的に有意な関係がない一方、外貨取引額の大きい企業が非公式から公式な外貨取引に移行する傾向を示した。これは、非公式市場が決済リスクを伴っていることを示唆している。

第7章は、本論文の分析を総括し、ミャンマーの外国為替市場の近代化に向けた暫定的な処方箋を示すとともに、本論文における分析の限界と今後の研究課題をまとめている。

本論文は、ミャンマーの外国為替市場の変容についての、初めての体系的な研究である点、ならびに公式市場の規模を上回る非公式市場を持つ途上国での外国為替制度改革という未開拓のテーマを研究している点で、開発研究における学術的な貢献は大きい。また、ミャンマーというデータの制約が多い途上国を扱いながらも、非公式為替レートや外貨オークションなど未公刊の金融データを丹念に収集するとともに、外国為替・貿易規制の推移を体系的に整理し、それらの情報を現地調査による企業や政府当局へのインタビューで補完して、ミャンマーの外国為替市場の経路依存的な変容を明確にした点で、ミャンマーの経済発展についての理解を大きく前進させるものと思われる。よって、審査委員会は一致して本博士論文は博士（国際公共政策）の学位を授与するに値すると認定した。